

（2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで）

特定非営利活動法人市民社会研究所

* アンダーラインは新規

1 2023 年度基本方針に対する総括

（1）事業体系をABCの3本柱とする。

A：市民のための研究室（①人権・市民教育、②市民の政治・行政への参画支援、③調査研究）

B：だれ一人取り残さない社会づくり（①就労支援、②居場所づくり）

C：ネットワーク型中間支援

パンフレットに3本柱を掲載し、さまざまな場面で使用した。

しかし以下の理由により、2024 年度は体系の見直しを行いたい。（2024 年度事業計画案に掲載）

- ① 2023 年度の「つながりの仕事おこし事業」等の新展開により、B②の確固とした方向性が明確になった。
- ② CとAを一体化した方が、Cで取り組んでいる内容及びCに SSK が関わる意味がわかりやすくなる。
- ③ ユニバーサル就労センターとの緊密な関係性を、内外に明確にした方がよい。

（2）Aについては、近年活動がやや低調になっていたA－②を強化する。またA－③についても実践・理論両面からの研究の充実を図り、成果の発表を積極的に行う。

A－②については、以下の取組みを行った。

- ・ NPO有志で「四日市NPOプレゼンテーション大会」の検討を行い、この過程で「四日市NPO協会」の再結成、四日市市議会議員との連携促進など、一定の前進があった。
- ・ みえ市民活動ボランティアセンター事業として、県内市町に対する「NPOの資金」についての調査を基に政策対話を実施した。

A－③については以下の取組みを行った。

- ・ 中島久恵会員が執筆した「四日市市内戦争と死者に関わる碑及び施設」の出版の検討のほか、「つながりの仕事おこし」事業での市内「居場所」等の調査、A－②のみえ市民活動ボランティアセンターの事業として市町に対する「NPOの資金」の調査を行った。

（3） Bについては、「北勢地域若者サポートステーション・伊勢おやき本舗・スプラウト及びユニバーサル就労センターが一体となった就労支援」という組織的優位性を活かし、部門相互が密接に連携して取り組む。一方、「つながりの仕事おこし」は就労支援を組織内部だけでなく「地域とつなぐ」ものであり、その意義を十分理解して取り組む。また、ひきこもりなど社会的孤立に陥りがちな人の居場所について、調査と実践に基づき、効果的なあり方を探りながら取り組む。さらにユニバーサル就労センターとの事業統合の検討も開始する。

就労支援を行う各部署は、相互に日常的に関係性を築き、連携して就労支援に取り組んだ。

また「つながりの仕事おこし」事業は、「つながり」をキーワードに、さまざまな居場所のネットワークづくりや、ゲームを使った居場所づくり等、新たな一歩を踏み出した。

ユニバとの事業統合は、検討を行ったが、別団体であることでユニバにとって施設外就労ができることの意義が大きく、組織の統合は行わないことに決定した。

- (4) Cについては、事務局体制のあり方を見直し負担の軽減を図るとともに、それぞれの活動への連携を積極的に行う。

東海市民社会ネットワークの事務局を岐阜 NP0 センターへ交代したほか、みえ県民交流センターの指定管理事業はみえ市民活動ボランティアセンターのスタッフが担うなど、合理化を図った。ささえあいのまち創造基金の事務局については、議論は行われたものの解決には至っていない。

一方 2023 年度は新たに、「四日市 NP0 協会」「食の輪よっかいち」の事務局を担うことになった。過度の負担にならないよう配慮しつつ、市民社会研究所として有意義な活動へ発展させたい。

(5) 組織基盤強化を図る

(ア) 「ひと・つなぐ・変える」のミッションをスタッフが常に自覚して事業を推進する。

このため、このミッションに関連するスタッフ研修を充実させる。

(イ) ホームページのリニューアルをはじめ、広報を強化する。

ア) については、SSK とユニバとの合同で 9 月に韓国研修を行ったほか、両団体のスタッフ研修のあり方を検討し、2024 年 1 月から毎月 1 回の合同スタッフ研修を開始した。

イ) については、ホームページのリニューアルはできなかったが、2024 年 1 月から、新たに Youtube による「SSK ちゃんねる」「ほくサポちゃんねる」の配信を開始した。

2 市民のための研究室

(1) 人権

概ね当初の予定通りの取組みを行い、仕様書を超える成果を上げたほか、これまではなかった新たな要請も 4 件あり、「人権」をテーマとする団体としての認知度が上がったと考えられる。

① 「実践行動につなげる人権のまちづくり研修支援事業」(三重県委託事業)

県民に対して「人権尊重の視点に立ったまちづくり」に関する研修会を実施する。

仕様書では 25 回程度、参加者数 1,500 人をめどとするとされていたが、結果的に 31 回、2246 人の受講者となった。(次ページ実績一覧参照)

【今年度の特徴】

- ・学校 (PTA 等) からの依頼が増えた。キャリア教育的な内容の要請もあった。
- ・専門的な福祉団体等からの高齢者や障害者の虐待に対応する研修の要請が増えた。
→ これらのテーマについては、ほくサポ・ユニバの協力により実施した。
- ・企業からの要請もあり、障害者雇用に関する悩みが打ち明けられた。
- ・部落問題に取り組む団体から、初めて部落問題に限定した要請があった。

② その他の人権研修

- ・ C T Y 職員研修 (12/13 3/21)
人権の基本・個別の人権課題
- ・ 四日市市職員研修 (係長職候補者 7/4) → 好評のため次年度は 3 回の依頼あり
人権の基本
- ・ 三重県人権・同和行政連絡協議会 研修 (1 月動画配信)
性の多様性
- ・ 紀南地域トップセミナー (2/20)
高齢者の人権とまちづくり

2023 年度「実践行動につなげる人権のまちづくり研修支援事業」実績

	実施日	団体名	所在地	人数	演題	講師
1	5 月 25 日	中勢森林組合	津市	38	パワハラ等のハラスメント	松井
2	6 月 23 日	紀北地域人権まちづくり推進会議	尾鷲市	20	生活困窮と社会的孤立	松井
3	7 月 4 日	四日市市人権問題研修会	四日市市	50	人権の基本	松井
4	7 月 8 日	NPO 法人 Shining	鈴鹿市	12	社会的孤立問題	松井
5	8 月 2 日	松阪市立西中学校	松阪市	21	インターネットと人権	松井
6	8 月 3 日	地域づくり研究会	四日市市	28	ささえあう地域づくり	松井
7	8 月 18 日	四日市市川島地区人権同和推進協議会	四日市市	28	基礎から学ぶ子どもの人権	松井
8	8 月 19 日	NPO 法人ユニバーサル就労センター	四日市市	18	仕事と居場所	松井
9	9 月 1 日	やさと伊坂・山村ダム公園化推進協議会	四日市市	10	ささえあう地域づくり	松井
10	9 月 3 日	天白人権まちづくりの会	四日市市	32	人間の尊厳と部落問題	松井
11	9 月 6 日	熊野人権擁護委員協議会	熊野市	25	人権の基本	松井
12	9 月 27 日	桑名市人権啓発推進会連合会	桑名市	36	女性の人権	松井
13	9 月 30 日	社会福祉法人 愛恵会	松阪市	42	障害者の人権～虐待を中心	松井
14	10 月 10 日	四日市市障害者体育センター運営委員会	四日市市	8	個人情報保護	松井
15	10 月 18 日	桑名市人権啓発推進会連合会	桑名市	35	外国人の人権	松井
16	10 月 23 日	(株) 中尾製作所	津市	30	ハラスメント	松井
17	10 月 25 日	社会福祉法人 敬親会	伊賀市	28	人権の基本・高齢者の人権	松井 周
18	10 月 27 日	三重高校	松阪市	500	SNS と人権	松井
19	11 月 10 日	三重高校	松阪市	550	LGBTQ と人権	松井
20	11 月 18 日	山之一色自治会	四日市市	30	高齢者の人権	松井
21	11 月 27 日	(株) 中尾製作所	松阪市	30	ビジネスと人権・LGBTQ 等	松井
22	12 月 2 日	松阪市立阿坂小学校 PTA 研修部	松阪市	150	なりたい夢を実現するために	松井 小林
23	12 月 11 日	海蔵地区人権・同和教育推進協議会	四日市市	25	インターネットと人権	松井
24	12 月 15 日	三重県立朝明高校 PTA	四日市市	300	外国人の人権	松井
25	12 月 16 日	四日市男女共同参画研究所	四日市市	20	高齢者と地域	松井
26	12 月 26 日	三重県専修学校協会	津市	20	障害者への配慮・ハラスメント	松井 周
27	1 月 15 日	きょうされん三重支部	津市	8	障害者の人権に配慮した施設 実践	松井 周
28	2 月 7 日	中尾製作所	津市	20	女性・障害者・外国人の人権	松井
29	2 月 16 日	太陽生命保険株式会社四日市支社	四日市市	42	性の多様性	松井
30	2 月 26 日	四日市ヘルスリーダーの会	四日市市	48	ことばと人権	松井
31	2 月 27 日	伊賀ふるさと農業協同組合	伊賀市	42	職場の人権	松井

合計 2,246 人

(2) 市民共育

スプラウト文化教室は他事業との関係で十分行うことはできなかったが、新しい連携組織を設立し、事業者と連携した消費者教育（＝市民教育）の場を創出した。

① スプラウト文化教室

2023年度は、ゲームによる居場所（毎月第3金曜日）と四傾聴による居場所（第1土曜日、第4木曜日）を行ったため、文化教室は以下の2回のみしかできなかった。その理由には、当初の企画のいくつかを、なやプラザ事業に振り替えたことも関係している。

曜日	時間	内容・講師等
8月12日（土）	10:00～11:30	オレンジ田中さんと楽しむ「オレンジ和プリン」！
11月11日（土）	10:00～11:30	障害を持つ私のトリセツ（ユニバ）

② 一般社団食の輪よっかいちの設立（10月16日。法人格取得は2月27日）

【目的】四日市市の事業者と消費者が連携して、「食」を通じた人間・経済・環境を大切にする人づくり及び地域づくりを行う

【事業（すべての事業において「人権・環境・地域」を大切にするとエシカルな視点を重視）】

- 一 「食」を通じて人が育つ場の創出事業
- 二 食品ロスの削減を推進する事業
- 三 四日市市の特産品の開発をはじめ「食」に関するビジネスの創出事業
- 四 その他目的を達成するために必要な事業

【役員・会員】

役職	所 属	氏名	担当
代表理事	三重促成株式会社 代表取締役社長 （四日市商工会議所 食品部会長）	福村 康仁	食ロス・ビジネス・事業者との連携
理事	北勢公設卸売市場株式会社 業務課長	石黒 誠	食ロス・ビジネス・事業者との連携
理事	スーパーサンシ株式会社 常務取締役	向 克樹	食ロス・ビジネス・消費者教育
理事	（一社）ネクストステップ研究会 代表理事	寺田 卓二	消費者教育・地域循環共生圏形成
理事	NPO 法人クロスポイント 代表理事	宇野 誠	情報発信・地域経済振興
理事	お笑い芸人	田中 哲也	市民等への啓発
理事	NPO 法人市民社会研究所 代表理事	松井真理子	全般・事務局
社員	NPO 法人三重はぐくみサポート代表（市議）	山田 知美	全般
社員	株式会社うつべ農園会長（市議）	上 麻理	農業生産者との連携
社員	NPO 法人市民社会研究所 事務局長	牧野 智彦	事務局（会計）
監事	みさわ行政書士事務所 行政書士	三沢 圭	業務の執行や財産の状況の監査

③ 連携する組織が行う人権・市民教育に関する事業への参加・協力

- ・ NPO 法人みえ NPO ネットワークセンター（みえ市民活動ボランティアセンター）
市民の交通サミット、未来のシティズンシップ講座、グローバル市民講座 等
- ・（公財）ささえあいのまち創造基金：四日市市地域づくりマイスター養成講座
- ・ 東海市民社会ネットワーク：G7市民社会コアリション・みんなの市民サミット等

④ その他

- ・ 四日市市熟年大学：「地域で市民活動・市民協働を進めるために」（8/3）
- ・ 三重県ボランティア連絡協議会総合研修会：「若者とボランティア活動」（11/25）

(3) 市民の政治・行政への参画支援

NPO有志によるアドボカシー活動である「四日市NPOプレゼンテーション大会(仮称)」の準備作業を通じて、四日市NPO協会が再結成され、またこれと関連して四日市市議会との関係性が進むなど、顕著な成果があった。

① 四日市 NPO プレゼンテーション大会(仮称)準備会及び四日市NPO協会復活

市内 NPO 団体(次ページ参照)に声をかけ、NPOが抱える課題を政策や事業案にして、多くの人を対象にプレゼンテーションを行う取組みの準備を行った。

6月14日	第1回	四日市NPO まちづくりプレゼンテーション大会(仮称)準備会
7月25日	第2回	〃
10月11日	第3回	〃
12月13日	第4回	〃
1月25日	第5回	〃
3月18日	* 四日市NPO協会の復活を決議	
3月26日	〃	プレゼンテーション(松井・松野)
(4月2日	〃	結果通知)

② 四日市市議会との関係づくり

6月12・13日 四日市市議会本会議傍聴

8月22日 議員とNPOの懇談会(参加者 下表)

9月以降 議員有志と①のプレゼンテーション大会の共催に向けて協議・合意

所属	会派・役職	氏名
四日市市議会	政友クラブ	伊藤 嗣也
〃	〃	荻須 智之
〃	〃	上 麻理
〃	新風創志会	谷口 周司
〃	フューチャー四日市	加納 康樹
〃	〃	後藤 純子
〃	〃	小田あけみ
〃	〃	伊世 利子
〃	市民目線の会	水谷 一未
〃	日本共産党	太田 紀子
〃	〃	村上 暁
防災一座	代表	松野 博
NPO 法人体験ひろば☆こどもスペース四日市	理事長	上田真紀子
一般社団法人ネクストステップ研究会	代表理事	寺田 卓二
NPO 法人四日市Dサポート	理事長	三原 貴照
NPO 法人四日市男女共同参画研究所	事務局長	堀田やよい
四日市障害者就労移行支援事業所ネットワーク	代表幹事	松井 周
NPO 法人下野・活き域ネット	理事長	谷口 欽衛
NPO 法人生活バス四日市	理事長	西脇 良孝
NPO 法人市民社会研究所	代表理事	松井真理子
〃	副代表理事	金 憲裕
〃	事務局長	牧野 智彦

③ 連携する中間支援組織が行う人権・市民教育に関する事業への参加・協力

- ・みえ市民活動ボランティアセンターの「市民活動に関する調査と政策対話」
2023年度は「自治体のNPOへの資金支援のあり方」について、市町への調査を行った上、県及び市町担当者との意見交換を行った。

- ・東海市民社会ネットワーク

G7に向けたG7市民社会コアリション2023の成果に連動する活動

(4) 調査研究

SSK独自の調査研究は十分にできなかったが、つながりの居場所おこし事業において2つの調査を行った。また、会員が執筆した研究の出版の検討を行った。

① 各種調査研究

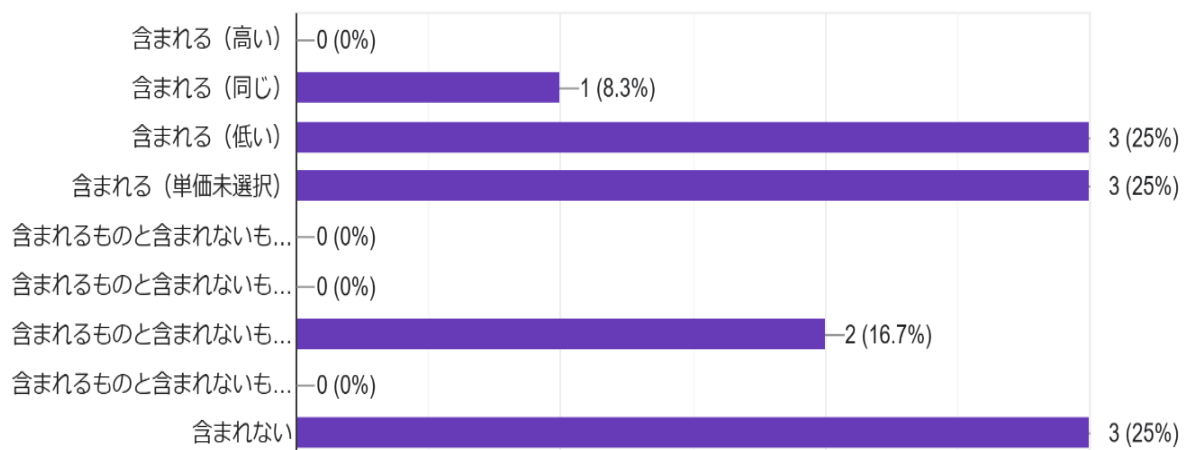
ア) つながりの仕事おこし事業における調査 (詳細は別掲)

- ・さまざまな居場所の実態調査
- ・ゲームによる居場所の参加者への調査

イ) 自治体のNPOへの資金支援のあり方調査 (みえ市民活動ボランティアセンター事業)

(参考)

NPOや地縁団体に限定した委託事業(例:公園管理、イベント実施など)の場合、委託費の中に人件費は含まれますか。



ウ) 自治体とNPOの「協働」のあり方について、イギリスの自治体職員と連携し、比較研究に着手した。

エ) 三重県のソーシャルビジネスの実態と支援のあり方について、SSKの韓国研修の成果を基に、みえ市民活動ボランティアセンターの調査研究事業として次年度取り組むことを決定した。

② 研究成果の発信

中島久恵会員が執筆した「四日市市内戦争と死者に関わる碑及び施設」の出版の検討を行ったが、次年度に持ち越しとなった。

3 だれ一人取り残さない社会づくり（ユニバーサル就労センターと連携）

（１） 北勢地域若者サポートステーション

就職者等の数は前年度より実績が向上したが、新規登録者数数が前年度実績を下回った。

理由は、第１にハローワークの相談体制が見直され、軽度困難者はハローワークで支援するようになり、かなり重い方がサポステ対象となったこと。これはほくサポだけでなく全国的な傾向である。第２に職員の交代があり、不慣れなため目先のことをこなすので手一杯だったことである。こちらは後半は安定し、数字の向上につながっている。新規登録者の獲得は重要であるため、民生児童委員や行政など支援する側へのアプローチを試みたが、直ぐに結果が出るわけではないので、今後も定期的に連携していきたい。

① 実績

・就職者等数

目標：120人 ⇒ 実績100人（目標比83%；前年比107%93件）
（内、就職氷河期世代13人（10.8%））

・新規登録者数

目標：170人 ⇒ 実績103人（目標比60%；前年比94%109件）
（内、就職氷河期世代17人（10%））

・延べ相談件数：2887人（前年度2736人）

（内、就職氷河期世代335人；前年213人）

② 集中訓練プログラム：40日間×年2回（県内ではほくサポのみ実施）

前期8名、後期7名の計17名で実施し、全員が修了証書を手にした。このうち6名が進路決定した。

内容の見直しを行い、新講座を5種行った。うち1種はPRの為に「知る自分」と題し職業興味検査を行い3名の新規登録につながった。

〈プログラム内容〉

① コミュニケーション能力を付けるために

・オリエンテーション ・コミュニケーショングループワーク ・アサーショントレーニング
・グループディスカッション ・構造的グループエンカウンター など

② 社会人基礎力をみがくために

・社会人基礎力養成講座 ・社会人ビジネスマナー ・話し方講座 ・労働法規の基礎
・職業人講話 ・ボランティア体験、合宿体験(4泊5日) など

③ 就職の実践につながる講座

・就職支援セミナー(履歴書・志望動機・面接訓練等)
・適性適職診断 ・職場実習(実際の仕事に従事する) など

④ 資格取得を目指す

・簿記3級講座 ・PC情報処理技能検定3級講座 ・ボールペン字講座 ・普通救命講習(救命技能認定書取得)

⑤ より良い自分になるために

・キャリアデザイン講座 ・幸福になるためのキャリアプラン ・エゴグラム・交流分析
・生活改善講座 ・知っておきたいSDGs

⑥ ストレスに強くなるために

・ストレス対処講座 ・メンタルヘルスの基礎知識

⑦ その他

プログラム期間中及び終了後も就職に向けた“相談”はいつでも受けれます。
北勢地域若者サポートステーションのキャリアコンサルタント等が対応します。



合宿での食事風景



修了式

③ 「成長・実感・達成！多様な学び・進路実現事業」の業務委託

三重県教育委員会より県内 4 サポステが委託を受け、高校との連携事業が始まり、高校、企業等関係者がメンバーとなる「高校生就労支援ネットワーク会議」も立ち上げた。この事業により、ほくサポは北星高校を拠点校とし、北勢地域の県立高校へのアウトリーチ支援が可能となった。R5 年度は 3 校 95 件の面談を行い、2 件の進路決定につながった。

④ 発信力の強化

- ・ 1 月からほくさぽチャンネル（ユーチューブ）配信を始めた。（第 2・4 水曜日）
- ・ HP での効果を活用する為、SNS 担当者を決め更新回数を増やし、より見てもらえる HP にしたところ、新規登録者の「ホクサポを何で知ったか」の回答に「HP」が増えた。



1歩を踏み出す #03



あなたが働くのはなぜ? #02



サポステってどんなところ?

(左) 北勢地域 2 市 5 町 + 四日市・桑名ハローワークで毎月実施している出張相談

(中) チートレ（チームトレーニング）講座風景

(右) 毎週木曜日に実施しているサポステボランティア

(写真は四日市市が募集する「平和への折り鶴」への貢献)



(2) 伊勢おやき本舗

① ソーシャルビジネスの取組み

おやきの新商品「ぽてと」を開発。また、オレンジ田中さんと連携して「オレンジ和プリン」開発した。サブレはじばさんを中心に受注が増え、和プリンは吉本興業のイベント販売が多かった。おやきのイベント販売では、リピーターが多く見られ、認知度の向上が感じられた。



売上実績（円）

年度	2020	2021	2022	2023
おやき	600,610	595,812	588,240	645,900
サブレ	761,680	429,998	854,815	926,541
ユニバ弁当	994,100	886,400	541,200	719,400
他	268,950 (ピロシキ等)	0	262,160 (和プリン)	217,030 (和プリン)
合計	2,625,340	1,912,210	2,246,415	2,508,871

② 就労支援の取組み

B型の利用者の通所日数の変化は見られなかったが、細かい作業分担を行ったことで、できない事ができるようになった。また一人一人に目標を立てさせ、自主性が強化された。製造作業以外にも、清掃・事務・イベント販売も作業内容として多く取り入れた。

外部からの実習生・ユニバやサポステからの訓練生の受け入れを引き続き積極的に行った。

スプラウトと連携強化し、訓練の幅が広がった。



B型、就労体験等受入れ人数

	B 型			就労体験		
	2021	2022	2023	2021	2022	2023
ユニバ	3	5	6	4	10	5
ほくサポ	—	—	—	6	6	3
その他実習生 (特別支援学校)	—	—	—	3	4	3



(3) トレーニングカフェ・スプラウト

① ソーシャルビジネスの取組み

- ・日替わりランチが定着し、常連のお客が増えた。
- ・大型スクリーンの設置、Wi-fi 環境の整備、テレビ視聴環境の改善、独自の固定電話番号・メールアドレスなど、利用される方の利便性の向上を図った。
- ・メニューの魅力向上等、ビジネスとしての売上をどう図るかが今後の課題である。

売上（円）

2019	2020	2021	2022	2023
5, 802, 540	4, 442, 790	3, 429, 100	2, 363, 800	2, 102, 309

② 就労支援の取組み

- ・多様な受け入れ先から、多様な訓練生を受け入れた。その結果、特別支援学校での実習や体験先に選ばれる機会が増えた。放課後デイでの体験後、特別支援学校での実習で再度スプラウトを選択していただくことがあった。
- ・調理や接客等、カフェならではのトレーニングにより、訓練生に自信が向上した。

就労トレーニング生等の受け入れ人数（人）

派遣元	受入れ人数		
	2021	2022	2023
四日市市（生活困窮者就労準備支援）	4	4（紹介 6）	4
ユニバ	13	12+B 型 2	10+ B 型 2
ほくサポ	5	6	4
体験（特別支援学校等）	0	3	9



スプラウトのトレーニングによって
初めての就職を成功させた Y さんを囲んで

③ その他

- ・スプラウト文化教室の実施（「市民共育」の項参照）
- ・各種居場所、懇親会、利用者の結婚式等の場の提供（「つながりの仕事おこし」の項参照）
- ・食品ロス削減への積極的な取組を行った。（「社会貢献」の項参照）



(4)「つながりの仕事おこし」事業 * 詳細は別冊報告書を参照

①「つながりの仕事おこし」の仕組みの拡大・定着

ア)「仕事おこし人」の拡大・定着

商店街の仕事おこし人の紹介により、ユニバ利用者が商店街の清掃を行うなど、就労以前の就労体験の場の提供にターゲットを拡大した。

イ)「心ある事業所」(働きにくい人を受け入れる事業所)の拡大・定着

これまで判明している事業所を MAP 上で見える化を図る検討を行った。

② ひきこもり等の人の新たな居場所づくり

ア) ゲームを使った居場所 (e スポーツとボードゲーム)

津市 NPO サポートセンターの川北輝代表の指導で毎月第3金曜日に実施。約90%が、ゲームによって前向きな変化があったと回答。

【主な対象者】

- ・北勢地域若者サポートステーション利用者
- ・NPO 法人ユニバーサル就労センター利用者 (就労移行・生活訓練)

イ) メタバースを使ったひきこもりの人の居場所の試行

現実の居場所に出られない人が一歩前に踏み出すための仕掛けを試行した。

ウ) 四傾聴と連携した「とまり木カフェ」

第1土曜日 15:30～17:30 第4木曜日 13:30～15:30

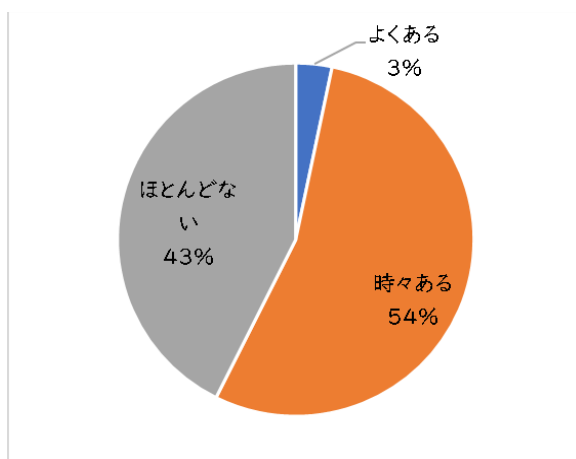
③ 既存の居場所 (子ども食堂、外国人、高齢者等の居場所) の実態調査

- ・実施時期 2024 年 1 月 25 日～2 月 16 日
- ・対象者 さまざまな居場所の実施団体 163 団体 (郵送)

④ 「つながり」シンポジウム

事業実施の状況と、調査結果等から見えてきたことについて報告するとともに、地域のキーパーソンと「つながり」の必要性について対話を行った。

調査結果から
「利用者の相談にうまく対応できないこと」



WAM助成 つながりの仕事おこし事業

参加無料
3/20 (水祝)
13:00～16:00
四日市市総合会館
8階視聴覚室

孤独・孤立に悩む人をたれ一人取り残さない

「つながり」シンポジウム

写真：ゲームを使った就労に悩む若者の居場所

第一部 事業報告

- ・地域若者サポートステーション (サポステ) の紹介
- ・「つながりの仕事おこし」の紹介と就労に成功した事例紹介
- ・メタバースとゲームを使った「孤立しがちな若者の居場所」の紹介
- ・多様な居場所の調査を通じた「つながりづくり」への政策提言

第二部 講演 『つながり』で地域の『力』を高めよう

講師：大西 連氏

1987年、東京生まれ。認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい理事長。
2010年頃から、ホームレス支援、生活困窮者支援に携わる。現場での支援と情報発信、政策提言等をおこなっている。
2021年6月より内閣府官務部、孤立対策担当室政策参与に就任し、政府の部会・孤立対策の政策立案にも参画している。
主著に『すぐそばにある「貧困」』(2015年ポプラ社)など。

第三部 シンポジウム 『つながりのプラットフォーム』をつくらう

パネリスト

- ・株式会社デルタスタジオ 代表取締役 若林 辰也
- ・四日市市健康福祉部福祉総務課 福祉支援係長 山岸 幸
- ・一般社団法人グローバルユース 理事 樋口 恵美
- ・四日市市社会福祉協議会生活支援室 室長 原田 悠子
- ・北勢地域若者サポートステーション 副所長 小林 理華
- ・NPO法人市民社会研究所 代表理事 松井 真理子

【お問合せ】実施団体：NPO法人市民社会研究所 〒510-0086 四日市市御前町3-4
TEL:059-355-5115 MAIL:ssk21w@yahoo.co.jp
【主催】三重県 NPO法人市民社会研究所 【後援】四日市市 中日新聞社

4 ネットワーク型中間支援組織の運営・協働

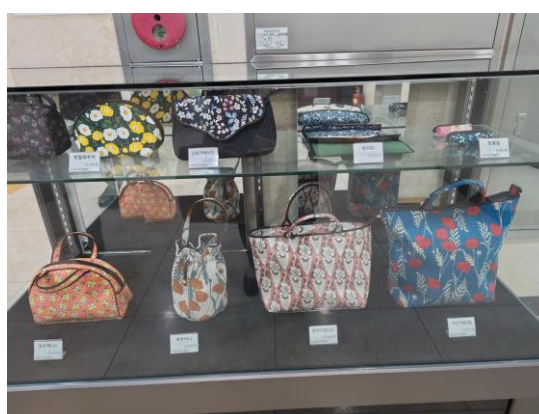
- (1) 公益財団ささえあいのまち創造基金（事務局 → 現状維持）
- (2) みえNPOネットワークセンター（事務局 → みえ市民活動ボランティアセンター）
- (3) 東海市民社会ネットワーク（事務局 → ぎふNPOセンターへ移管）
- (4) 四日市NPO協会（2024年1月25日結成 事務局 SSK）
団体概要（別紙）参照
- (5) 食の輪よっかいち（2023年10月16日結成 一般社団法人化2月21日 事務局 SSK）
団体概要（別紙）参照

5 組織基盤強化

(1) 職員研修

① 韓国の障害者の就労支援団体訪問（参加者 11 人）

日程	内 容	宿泊
9月10日 (日)	6:30 中部国際空港集合 → 逐次チェックイン チェジュ航空（済州航空 JEJU Air） 9:00 中部国際空港発 11:00 ソウル（仁川空港 第1ターミナル）着 13:30 頃 ホテル着 その後 自由行動	スカイパークセ ントラル明洞
11日 (月)	10:00 希望イルグームタ訪問（陽川ベンチャータウンビル） 12:30 エージェント社訪問（通訳をしていただく方の事務所） 13:00 ランチ（韓定食専門店） 14:00 ソウル市立障害者生産品販売施設訪問 15:30 希望カフェ（パリ公園店）訪問 終了後自由行動	スカイパークセ ントラル明洞
12日 (火)	11:00 仁川空港発（チェジュ航空） 13:00 中部国際空港着	



② SSK・ユニバ合同研修会の開始

- 9月28日 読書会「やってみたくなるオープンダイアログ」（斎藤環著）
- 1月11日 全員の自己紹介（職歴、現在の仕事内容、これからやりたいこと等）
- 2月22日 動画視聴「わかりあえないことから始める」（平田オリザ＋奥田知志）
- 3月28日 三澤夫妻による「ろう者を知る・手話入門」

(2) 広報の強化

① SSKリーフレット作成と活用

② Youtube「SSKちゃんねる」「ほくサポちゃんねる」の開始(1月～)

- ・SSKちゃんねる：第1, 第3水曜日に公開

松井代表を中心にSSKの設立経緯、さまざまな事業を関係スタッフが紹介

- ・ほくサポちゃんねる：第2, 第4水曜日に公開

小林副センター長を中心に、ほくサポのさまざまな活動を紹介

- ・撮影・編集は辻スタッフが担当。



- ③ ホームページのリニューアルを計画していたが、事業に追われてできなかった。

6 地域貢献

(1) 外部団体の研修の受け入れ(SSK+ユニバ) (左:県立看護大学 右:都留文科大学神長ゼミ)



(2) 四日市市食べきり推進店の協力(スプラウト・伊勢おやき本舗)



売れ残りの「軽食販売」

(3) 県が行う「お店で子ども食堂」事業の協力（スプラウト）

四日市市の実施団体：NPO法人みえはぐくみサポート



(4) 地域のイベントへの協力（スプラウト・伊勢おやき本舗）



B 1 グランプリ協力店



諏訪交流館ハロウィンイベント

(5) サポステボランティア（前掲）

毎週木曜日に、サポステ利用者による地域の社会貢献活動を行っている。

(6) グリーンモール商店街の会員として商店街の発展に協力